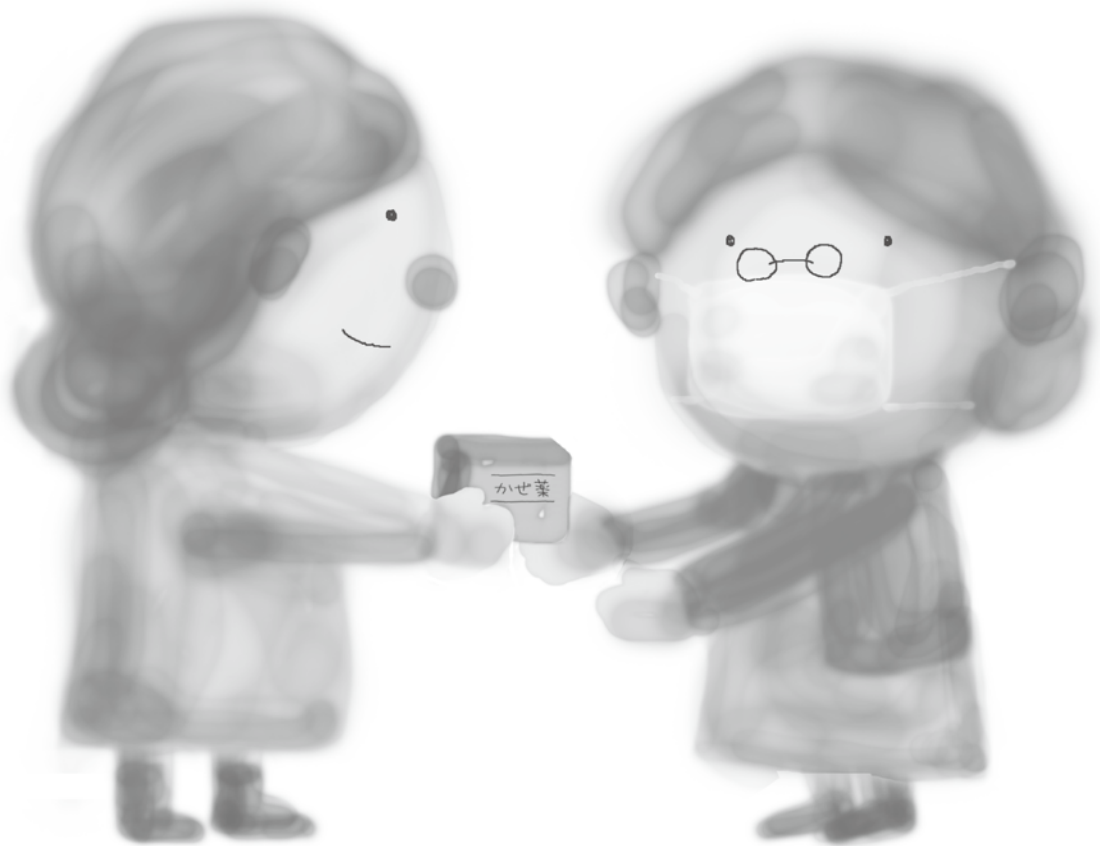


被災地での一般用医薬品とジェネリック
医薬品の活用にも、薬剤師の助言が。



薬剤師の助言により一般用医薬品(大衆薬)が大活躍

災害時における避難所では、集団生活を強いられるため
かぜが流行しやすく、東日本大震災でも発熱や咳、痰、のどの痛みなどを
うったえる方が多く見られました。また、生活リズムの変化により
便秘になる方や、埃により目の痛みをうったえる方も増えました。
そのため、感冒薬や解熱薬、便秘薬、目薬などの一般用医薬品や、のど飴、
マスクなどが多数必要とされましたが、
薬剤師のアドバイスや説明が役に立ちました。

新薬不足の際にジェネリック医薬品を利用

東日本大震災では、新薬(先発医薬品)の製造工場が被災し、
供給不足になった例がありました。そのため、
震災前に服用していた薬からジェネリック医薬品に
変更するケースが見られました。

その際には在庫している多くの医薬品の中から
適切なジェネリック医薬品を見つけ出す必要がありました。が、
そこには薬剤師の助言による医師へのサポートがあったのです。



◎ジェネリック医薬品とは、新薬(先発医薬品)の特許が切れた後に販売される、
同じ有効成分、同じ効果効果を持つ医薬品のことです。